

ぬくもりのある日本、 みんなが隠れた才能を もっている

～障害のある人たちが創造するアート～



平成20年6月

障害者アート推進のための懇談会

表紙

- 右上 「右ボディストレート」 新木 友行(しんき ともゆき)
2006年制作 420×594mm 紙にペン、色鉛筆 所蔵:アトリエ インカーブ
- 右下 「支口アザイン」 寺尾 勝広(てらお かつひろ)
2006年制作 257×364mm 紙に色鉛筆 所蔵:アトリエ インカーブ
- 左 「おしゃべり」 友永 太(ともなが ふとし)
所蔵:株式会社パソナグループ アート村プロジェクト

目次

池坊文部科学副大臣からのメッセージ	1
岸厚生労働副大臣からのメッセージ	2
作品集	3
1. 「障害者アート」の名称、定義、範囲	6
(1) 名称及び定義について	6
(2) 障害の種別及び芸術の分野について	6
2. 「障害者アート」を推進する意義	7
3. 「障害者アート」を推進するための具体的方策	8
(1) 芸術としての「障害者アート」	8
(2) 普及啓発・鑑賞機会の拡充	9
(3) 福祉の場における芸術活動の支援	9
(4) その他考えられるもの	10
委員からの提言	11
・ 今中 博之 委員	12
・ 高木 金次 委員	15
・ 建畠 哲 委員	17
・ 根本 友己 委員	19
・ はた よしこ 委員	20
・ 日比野 克彦 委員	22
・ 広瀬 浩二郎 委員	24
参考資料	27
・ 我が国の博物館における障害者の芸術鑑賞機会の拡充のための取組等	28
・ 障害者アート推進のための懇談会 ～ぬくもりある日本、みんなが隠れた才能を持っている～について	31

池坊保子文部科学副大臣からのメッセージ



私はかつては時間が出来ると、絵筆を取る事がよくありました。絵を描き出すと全ての雑事を忘れ、没我になり、ただひたすら絵の世界にのめりこんでいくのです。それは煩雑で喧噪とした日常を離れた、私にとって非日常の至福の時でした。絵を描く時間がなくなってからは、時間を割いてぶらりと絵を見に行きます。

ある時ある場で、今まで見たこともないような構図や発想の絵に出逢いました。それは既成の概念から遠く離れた、私たちの想像を遙かに超えた世界を繰り広げ、まるで緻密なゴシックを積み重ねたような繊細さと、それでいながら得も言われぬエネルギーを発散させていたのです。どんな人が、どんな状態でこの絵を描いたのだらうと思ったとき、私は障害を持った方々が創造するアートだということを知りました。純粋に無垢な世界を持ったその絵の表現に感動した私は、一人でも多くの方々にその感動と喜びを分かち合いたいと秋篠宮同妃殿下の御臨席を得て、新設した丸の内のギャラリーで、平成19年6月「ぬくもりある日本、みんなが隠れた才能を持っている」をテーマに絵画展を開催しました。

絵に吸い込まれ、私自身も現実から隔絶された世界に誘われつつ、素直に私と同じ感動を一人でも多くの人と分かち合うにはどうしたら良いのかと考えました。と同時に、ただ単に芸術のみならず、教育・社会福祉などの様々な分野にこの感動の輪を広げたいと、岸厚生労働副大臣とともに障害者アートの推進のための懇談会を立ち上げました。6回の懇談会を重ね、各分野の専門家の委員からは大変貴重な御意見を頂きました。私の心の中には、会を重ね、障害者アートへの理解を深める度に、障害って何だろうという疑問が沸々と沸き上がり、それは私にとって解答の出ない答案用紙でした。私は障害という言葉が嫌いです。障害という言葉が、妨げという意味だとしたら、それは間違っていると私は言いたいのです。このような素晴らしい絵を描かれた方たちは、あまりにも突出した才能の故に、ある部分、社会に適応していく能力の一部は欠如しているかもしれません。でもそれは社会で生きていく上の果たして妨げでしょうか。私にはどうしてもそうは思えないのです。それも個性の一つと思えるのです。

この懇談会を一応一つの区切りとして報告書をまとめた今も、私の心の中には何という表現をしたらいいのかと、戸惑いの気持ちを払拭できません。ただ一点ははっきりと言えることは、突出した能力を持った方々の個々人の生命の輝きが、見る人に安らぎと喜びと生きる力を感じさせることだけは明確であり、その理解と共存の輪が広がるのが制作者だけでなく、今の社会に生きている人々の幸せであるということです。